

新しい年度が明けました。私たち第3学年職員一同も、大きな期待と緊張感を持って始業式を迎えました。義務教育の最終年にあたる今年は、皆さんの進路選択および決定の年でもあります。この進路通信を通して、進路に関する行事予定や入試に関する情報を適宜連絡していきますのでぜひ活用してください。また、心の相談室前の進路掲示板やポスター、廊下机上の印刷物なども普段から注意して見るようにしましょう。進路通信は配付された後、目を通してからファイルにとじ込んでください。進路関係の行事や重要な連絡事項は2部配付します。一部は必ず家庭に持ち帰り、保護者に渡るようにしてください。

いよいよ中学校生活最後の年になりました。どんな1年にするのか、どんな卒業を迎えたいか、目標をはっきりと掲げて前進したいものです。下の心構えを参考にしてください。

1. 学校生活のリーダーとして自覚をもち、生徒会活動や部活動、諸活動に積極的に参加して、常に下級生の模範となるように努力しましょう。
2. 自らの意思と責任で進路を決定できる自己の確立を図り、広い視野のもとに進路研究を行って、希望の進路実現に向かって努力しましょう。
3. 場面に応じた素早い切り替えと、けじめある態度や言葉遣いができる大人になれるように努力しましょう。
4. いつも自分の意見をもち、個性的に生きながら、同時に集団と調和を考えて生活できる人、自分を大切に、また、周囲を大切にできる人を目指しましょう。

「進路を決める」とは？

進路を決定するとは、具体的にどのようなことでしょうか。どのようなことに留意し、考えていけばよいのでしょうか。日本進路指導協会が出している『目的意識を育てる進路指導』という本の中に、「進路学習・進路設計に必要な3つの自覚」について、次のように触れられています。

1. 自分の進路は自分の意思と責任で選び、その後の生活は自分の意思で築いていくのだという自覚。
2. 就職するにしても、進学するにしても、その理由や動機が、自分を真に生かすことに通ずるものでなければならないのだ、という自覚。
3. 進路の学習や進路設計は、未知で未経験な将来に、自分をより良く生かしていくために必要なものであり、従って卒業後の就職・進学などをより良く決定することはもちろん、最終的には将来における職業上の自己実現を図ることにねらいがあるのだ、という自覚。

これらを参考に、みなさん自身の意思で進路決定していくことが大切です。更には、自分の進路を考える為に、次の7つのステップを踏んで考えてみてはどうでしょうか。自分で意思決定をして受験するからには、第一志望であろうと、第二志望であろうと、自信をもって進学してほしいと思います。第二志望以下の学校であると、一種の劣等感や挫折感をもち、その後の生活に張りがないという声もありますが、それは大きな間違いです。気持ちを切りかえ、自分の夢を叶えるためにたゆまぬ努力を続けることが大切です。

進路希望を考える7つのステップ(上級学校・事業所に)

- | | |
|----------------------|-----------------------|
| ① になりたい (意 志)ー(入りたい) | ⑤ なるべきか(生きがい)ー(入るべきか) |
| ② 何のために(目 的)ー(何のために) | ⑥ ならう (意 欲)ー(入ろう) |
| ③ なるには (方 法)ー(入るには) | ⑦ なる (実 現)ー(入る) |
| ④ なれるか (可能性)ー(入れるか) | |

1年間を見通した学習計画を

進路は高校進学だけではありませんが、進路選択にあたって必要なものに「学力」があります。学力の向上は一朝一夕で実現するものではありません。中学校3年生の勉強は「二本立て」です。一本は毎日の授業の予習・復習と定期試験に向けての学習であり、もう一本は受験勉強(確認テストに向けての試験勉強は最低限)です。この二本をバランスよく進めていくことが、総合的・実践的な学力の定着に繋がります。受験勉強にばかり力を入れて学校の勉強をおろそかにする人もいますが、これは大きな間違いです。入試問題の出題範囲は、中学校3年間の学習内容であり、最近では教科書のかっこ書き表示の用語や図など、細かいところからも出題されています。授業の学習内容は、すべての学力の基礎であり、日々の授業の学習内容は入試の範囲そのものです。

また、日々の取り組みの成果である各教科の評定(内申点)も、受験や合否に大きく影響します。二本立て学習を成功させるには、先を見通した計画と、計画を実行に移す強い意志が必要です。

〈保護者の皆さまへ〉

～親子で考える進路選択～

進路の選択は、ほとんどの生徒が初めて直面する試練です。「進路選択＝高校選択」にこだわらず、広い視野をもって、生徒の10年後・20年後の生活を見通し、じっくりと考えていきたいものです。親子の意思が通い合い、親の応援があると実感しているとき、子どもは生活に張りを持ち、目的をもって生活できるものです。親の希望を一方的に押し付けるのではなく、子ども自身に考えさせ、その希望を大切にしていきましょう。

～確認テストについて～

3学年では、年5回の定期試験以外に、学力の定着度を見るための「確認テスト」を実施します。確認テストの結果は、中学校の評定には一切関係ありません。あくまでも進路選択や志望校の可否判定のための資料となります。試験範囲は毎回、試験日の1か月前に進路通信を通じて発表します。基本的に2回までは1、2年の復習ですが、3回目は3年生の学習内容が入ってきます。4回目は公立入試模擬テストとなります。なお数学は毎回、定規とコンパスが必要となります。公立入試に準じ、国語は聞き取りテスト、英語ではリスニングテストを実施します。

保護者・生徒・教師が三位一体となって、

生徒一人ひとりの進路を検討していきたいと考えております。

ご不明な点、ご質問がありましたら、担任・学年職員にご相談ください。